

地域の魅力を伝えるための CM 作成プロジェクト in 大津町

CM 作成を通じた熊本理解の促進

プロジェクトメンバー

尚綱大学 文化言語学部 准教授・北口英穂

連携機関

プロジェクトの概要・目的

内外から大津町を訪れる人々に大津町の魅力を伝えるための CM を作るという活動を通して、地域の実情と課題を認識し、地域活性化・復興につながる取り組みを実践して地域理解を深めることが目的である。教育プログラム適応授業「サービスラーニング入門Ⅱ」と連携し、CM 作成のプロの方の指導を受けながら、大津町内の魅力を発掘・撮影し、CM を作成する。また、熊本地震からの復興も今後の熊本の地域活性化に欠かせないことから、被災者ケアのプロジェクトを別の教育プログラムの授業（集中講義「地域プロジェクトワーク」）と連携し実施し、その様子についても CM 作成の素材とし、被災者ケアを通じた学生の地域理解、復興支援を促す内容とする。

活動内容と成果・効果

CM 作成に関する主な活動内容は以下の通りである。①オリエンテーション、PR や CM について、大津町の基本情報の把握②大津町のリサーチ、ロケハン③絵コンテ作成④撮影⑤編集作業⑥まとめ。また、被災者ケアについては以下の通りである。受講生は、事前に資生堂スタッフにより、3 回にわたって Life of Quality に関する講義および化粧療法や高齢者のアテンド方法などの実践的指導を受けた後、大津町 3 ヶ所に設置された熊本地震の被災者用仮設住宅の入居者に対し、ハンドケアマッサージやネイルケアの施術ボランティアを実施した。

CM については当初予定していた長さの CM には至らなかったが、試作品として次の CM が製作された。(https://youtu.be/rf9-l1_tuIo)

内容、質ともに十分なものではないが、CM 製作を通じた地域理解促進の目的は達成できたと思われる。今後も継続して実施する予定である。

CM 作成の参加学生は慣れない機材や PC での編集作業に悪戦苦闘していたが、CM の作成を通じて、取材する側だけではなく、取材される側の視点、そして CM を見る側の視点、多角的に物事を見る重要性を理解すると共に、熊本の地元を再認識するきっかけになったと思われる。今後も地域理解の一つの有効な方法として、CM 作成を通じたプロジェクトは継続していく予定である。

被災者ケア実践では、仮設住宅在住者の方に多くの笑顔が見られ、リラックスしてもらうことができ、仮設住宅在住者間の交流も促進することができた。実践を通じ、学生の地域理解、復興支援などを促し、高齢者など学外の一般の方との触れ合いを通じてコミュニケーション能力の向上が見られた。

■ 地域の魅力を伝えるためのCM作成プロジェクト in 大津町 (写真)

尚綱大学・尚綱短期大学部

平成 28 年 8 月 20 日 (土)、8 月 25 日 (木) 実施

大津町 3 ヶ所に設置された熊本地震の被災者用仮設住宅の入居者に対し、ハンドケアマッサージやネイルケアの施術ボランティアを実施



ネイルケアの施術方法指導の様子

『熊本日日新聞』2016年8月26日朝刊

平成 28 年 10 月 22 日 (土)、11 月 12 日 (土) 実施

- ①オリエンテーション、PR や CM について、
大津町の基本情報の把握
- ②大津町のリサーチ、ロケハン
- ③絵コンテ作成
- ④撮影
- ⑤編集作業
- ⑥まとめ



CM 作成の撮影指導の様子



CM 作成の絵コンテ作成指導の様子

尚綱大学文化言語学部
准教授 北口英穂